

若杉歯科クリニック

歯科治療

代表者名 院長 若杉 好文

設立年月日 1981年(平成56年)7月7日

所在地 〒405-0018 山梨県山梨市上神内川1243-2

T E L 0553-22-1288

F A X 0553-23-3068

E-Mail Wa_ka411@yahoo.co.jp

U R L <https://wakasugi-dental.com>

業 種 医療業

資本金額

従業員数 13人

インタビュー



院長
若杉 好文

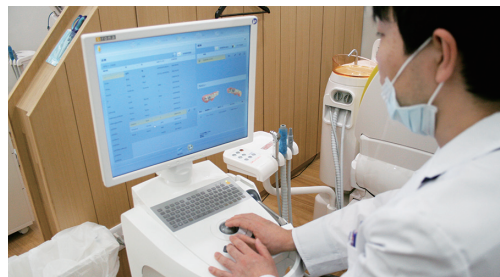


副院長
若杉 好彦



テーマ 地域密着型高精度口腔外科治療の推進事業

歯科用CT、マイクロスコープ等の設備を導入し、自院で有する高い技術をさらに生かすことにより、地域親身な対応という強みを生かしつつ、根尖性歯周炎治療やインプラント治療等における院内で治療を行うサービスを構築する。



せがデ
ら可
患者
をチ
エ
打
ツ
ク
合
し
な

当院は長く地域に根差した歯科治療を行ってきた。開業から40年、患者は高齢者からお子さん連れの親子、学生など、地元に着目しており長く治療を担当することが多い。地域歯科医療を担ってきた自負がある。また地域でも希少な自動血圧計、モニター治療、滅菌処理装置を備え、歯科治療に加えて口腔外科分野までの治療が可能である。副院長は、琉球大学医学部付属病院歯科口腔外科での勤務を経た口腔外科認定医であり、多くの治療実績がある。長く通っていただいている多くの患者をもち、なお高い技術をも有している歯科医院なのである。

高い技術を持つ当院においても、高度な治療例である「根尖性歯周炎治療の歯根端切除」や「インプラント治療」等には、『歯科用3次元CT』『マイクロスコープ』などより高度な医療設備が必要となる場合がある。こういう治療が必要になると大学病院や総合病院の口腔外科に紹介することとなる。この場合、患者は、紹介状や再度の初診が必要となり、また病院が遠方であれば時間や交通費など別途費用・負担が生じてしまう。長く診療をしている患者であればあるほど、歯科医師と患者として理解し合っている部分も多く、新たに大学病院や総合病院の口腔外科で行われる治療が、患者にとってデメリットとなる可能性もある。紹介して治療まで時間がかかって症状が悪化するケースもある。

大学病院や総合病院と同じ技術を持ち、親身な対応により高い成功率を上げることができる高度な治療を、当院で初診から一貫して完結できることこそ、地域歯科医療の最も望まれる最終形といえるだろう。

口腔外科における高精度口腔外科治療例の「根尖性歯周炎治療の歯根端切除術」では大きなう胞の切除手術に、より正確な診断を可能とする『歯科用3次元CT』の立体画像でわかりやすいレントゲン画像が必要である。

0.2mm以下の病変の取り残しや歯根の亀裂などを拡大した視野で充分見える『マイクロスコープ』も必要となる。

また「インプラント治療」を当院で一貫治療を行い完結するには、歯科用CTが必要であり、3次元CTの立体画像データをもとに『ACオムニカム(CAD)』と『ミリングマシン(CAM(削り出し機))』でサージカルガイドを作成。また『プログラマット』を加え人口の歯を院内で、AIによって製作できる状況を整える。また、このサージカルガイドを使用し2歯の欠損にインプラントを埋める穴を開ける手術も可能となる。

設備を充実することで院内ですべての治療が完結できる。あらゆる所要時間も短縮され、患者の負担を軽減し、信頼の歯科治療を提供できる。



サ
ー
ジ
カ
ル
ガ
イ
ド
イ
ン
プ
ラ
ン
ト
治
療
の
一
翼



サ
ー
ジ
カ
ル
ガ
イ
ド
イ
ン
プ
ラ
ン
ト
用
型
と

琉球大学に行き口腔外科を極めたのは、海の生物が好きなせいもある、かもしれない



外観

副院長は、いわゆる跡取りのお医者さんなのだが、単に地盤を引き継ぐという保守的な姿勢ではなく、もっと別の挑戦的な思いがみえる。都内の歯科大学のあとに、琉球大学医学部付属病院歯科口腔外科での勤務、つてなにか思いがありますよね。きっと。

「海の生物が好きで、ダイビングをしました。あの水槽の中も、すべて自分で構築して、掃除も管理もしてますよ。」

と、目を細めた。おさかなが好きな歯医者さん、なののでしょうか。こだわりの凝り性気質、しかもそれが全方向性、というのを話を伺った限りの副院長の人となりだ。インドア派かと思うと、海に飛び込むアウトドア派でもあり。ただ一貫しているのは、極める派だということ。患者さんに対して、海に対しても、徹底することが本来の姿だ。



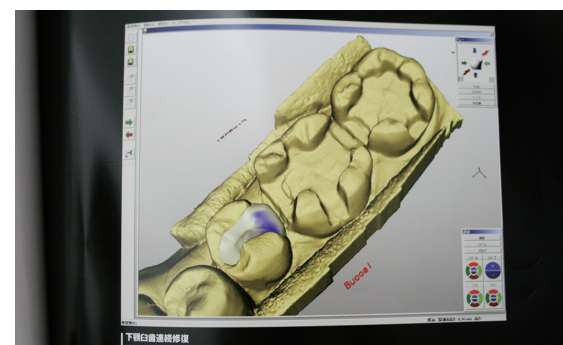
ロ
ビ
ー
で
患
者
さ
ん
も
含
め
て
の
癒
し
と
な
っ
て
い
る
水
槽
(
管
理
…
副
院
長
)

従来の場所から30m移転して、リニューアルした若杉歯科クリニックを訪ねる。広々として居心地よい院内に入っただけ、気付いてしまったのはロビーの水槽である。珊瑚が配された南国仕様の水槽内には「ニモ」も「ドリー」もいて、さわやかで美しい別世界を見せてくれる。

「副院長がすべて管理しているんですよ。海の生物が大好きなんです。」

若杉歯科クリニックは、1981年、院長が開業した地域に貢献する「地元の歯医者さん」である。お子さんから高齢者も含め、家族揃って通っていただくことも多いという。安定した信頼を得ている歯科医院だ。

院内ですべての治療が一貫して完結することで、患者さんファーストの治療が叶うのだ



3
次
元
レ
ン
ト
ゲ
ン
画
像
詳
細
に
見
え
る

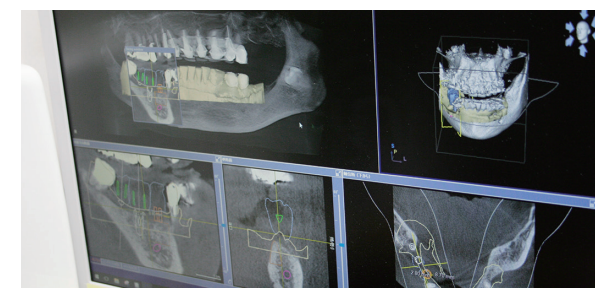
自院での治療の限界があって、大学病院に患者を紹介すること。これが、なかなか納得できない。長く診てきた患者さんに、互いに納得できる安定の治療を最後までし尽くしたいのだ。しかも、副院長は口腔外科の認定医であるわけで、本来なら全て自分で完治できるし、そうしたい。このプロジェクトによる設備によって、ついに患者さん自身が安心の治療を、気軽に受けることができるようになるのだ。

まず、あらゆることが時短でできる。型をとる、仕上げる、具合を見る、調整する等々。型を取るのにはCADで、あの大きなガムを呑みこむような苦しい時間はない。立体的360°方向の画像が撮られ、寸分の狂いもない義歯を造ることができる。技工も自院で出来上がるので、時としてその場で少々待つて仕上がるという凄技もできるらしい。

技術が伴った設備装置ではあるが、過去をさかのばれば、カンや経験で乗り越えていたディテールの部分を、完全なる3次元に視覚化された画像や抽出されるサージカルガイド等により、歯科治療の評価に「心地」を入れることも可能ではないか。

しかも、通年通ったいつもの歯科医院内で、心に浮かぶ不安や、気になっても口にできないあの圧迫感なしに率直に歯科治療を受けられるのは、快哉といってもいいかもしれない。患者1人ひとりに丁寧に施術し、治療計画を説明できる環境は、互いに心地よい。

そしてもう一人、切り札的人材が登場する。矯正歯科医である副院長の弟・若杉寛先生だ。寛先生の参画により、若杉歯科クリニックにおける一貫歯科治療は理想通りに完結する。そしてにこにこと遠くから頼もしそうに視線を投げている院長の見守りこそ最強の完結の仕上げといえる。



3
次
元
レ
ン
ト
ゲ
ン
画
像